



## 第50回

# 国際理解・国際協力のための 全国中学生作文コンテスト

### 本年度テーマ

「『核兵器のない世界』に向けて国連がすべきこと」

「世界から貧困をなくすために国連がすべきこと」

「もしも私が国連職員なら」

※上記のうちいずれか1つを選択

応募者全員に参加賞をプレゼント！

## 応募要項

主催

日本国際連合協会兵庫県本部

応募者全員にもれなく参加賞を差し上げます!!!

ニューヨークの国連本部に行けるチャンス有り!!!



1. 主催 日本国際連合協会兵庫県本部
2. 後援 兵庫県 兵庫県教育委員会 兵庫県人権擁護委員連合会  
神戸新聞社 サンテレビジョン
3. 課題 「『核兵器のない世界』に向けて国連がすべきこと」  
「世界から貧困をなくすために国連がすべきこと」  
「もしも私が国連職員なら」  
のうちいずれか一つとする。一つを決めた上での副題も可。作文の内容は、学校、家庭、社会などにおける執筆者の学習や体験あるいは実践などを通し、国際連合について述べたものとする。
4. 原稿制限 400字詰め原稿用紙4枚以内  
原稿には、氏名・住所・学校名・学年・年齢及び県名を明記すること。
5. 募集方法等 (1) 対象 兵庫県内の中学校または左記に準ずる在日学校在學生  
(2) 原稿締切 平成22年9月7日(火)(必着)  
(3) 応募点数 1人につき1点。  

学校応募の場合は1校につき15点を限度とする
------------------------

  
(4) 送付先 〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1  
国際健康開発センター2階  
(公財)兵庫県国際交流協会内  
日本国際連合協会兵庫県本部
6. 審査 (1) 審査員は主催者側において決定する。  
(2) 兵庫県予選の審査は9月17日(金)までに行い、入賞作品を決定する。入賞作品の内、とくに優秀作品(2篇以内)を全国コンテストに参加させる。

7. 賞
- (1) 最優秀賞 1名
  - (2) 優秀賞 1名
  - (3) 佳作 数名
- ◎ 入賞者には賞状と賞品を、応募者全員に参加賞を贈る
8. 作品の取扱
- (1) 応募作品は返却しないことを原則とする。
  - (2) 入賞作品の著作権は主催団体に帰属する。
  - (3) 入賞作品は、学校名、学生名ともに主催団体のホームページ等に掲載することを予定している。
9. 全国コンテスト
- (1) 全国コンテストは、日本国際連合協会が審査のうえ入賞作品を決定し、入選発表は平成22年10月22日(金)予定
  - (2) 兵庫県予選・全国コンテストともに、所属学校長に結果を通知する。  
※個人応募の方への個別通知はありませんので予めご了承ください。
  - (3) 全国コンテストでの入賞者のうち特賞4名は、来年の春休み期間中、1週間程度の日程で、外務省が実施予定の「奥・井ノ上記念日本青少年国連訪問団」に参加することができる。同訪問団は、米国ニューヨークの国際連合本部視察、国連関係者との懇談等を行う予定。  
※全国大会では、特賞(4編)、優秀賞(3編)、金賞(3編)銀賞(3編)、佳作(5編以内)が選ばれます。

◎ 問合せ先 〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 国際健康開発センター2階  
(公財)兵庫県国際交流協会内  
日本国際連合協会兵庫県本部  
TEL: 078-230-3267 担当: 小野・法田  
E-mail: pld@net.hyogo-ip.or.jp

**作品の応募には、別添の応募申込書を添付してください。たくさんのご応募をお待ちしております！**

# 国連とは？

## 国連とは？

正式名称を「国際連合 (the United Nations=UN)」といい、世界の平和と経済・社会の発展のために協力することを誓う国々が集まった機関である。本部はアメリカのニューヨークにある。

平和を守るための国際的な組織を作るという構想は、第二次世界大戦の苦しみの中で生まれた。長年にわたる話し合いの結果、1945年10月24日に国連が誕生した。2005年は国連創設60周年、2006年は日本の国連加盟50周年であった。創設当初の参加国は51ヶ国であったが、現在の加盟国は192ヶ国にのぼる。日本は1956年に80番目の加盟国となった。

## あらゆる問題を話し合う場

国連総会はすべての加盟国が集まり、あらゆる問題について話し合いや提案が行われる。年に一度9月に始まる総会では、事務総長の任命、各加盟国が国連にどれくらいのお金を払うべきか(国連分担金)、集まったお金をどのように使ったらよいかなど、様々な議題が取り上げられる。加盟国は国の大小に関係なく各1票の投票権を持ち、重要な事は3分の2以上の多数決で決まる。

## 平和と安全のために

安全保障理事会(安保理)は平和と安全の問題について話し合う機関である。国連のすべての加盟国は、安保理の決定事項を守り、実行しなければならない。安保理は5ヶ国の常任理事国(中国、フランス、ロシア、イギリス、アメリカ)と10ヶ国の非常任理事国(2年ごとに総会で決まる)から成る。安保理での話し合いを経て、戦争当事国に対し停戦を要求したり、PKO(Peace Keeping Operations、平和維持活動)を派遣して争いの平和的解決を図ったりする。

## すべての国が豊かになるために

貧しい国や困っている国を助け、みんなが豊かになることを目指す機関が経済社会理事会(経社理)である。貿易、工業化、環境、食糧、教育、保険など幅広い経済と社会の問題を扱う。社理と協力関係にある機関には、困っている世界の子どもたちを助ける国連児童基金(ユニセフ)や、世界の文化・自然遺産を守り、教育を受けられない子どもたちを助ける国連教育科学文化機関(ユネスコ)などがある。日本を含む54ヶ国から成る理事会は、年に一度会議を行い、人種差別、女子への権利、犯罪など、幅広い問題の解決に努めている。

## 国連が力を入れていること

国連の幅広い活動を取りまとめ、リーダー役を務めるのが国連事務総長である。2007年1月には、韓国出身の潘基文(パン・ギムン)氏が第8代事務総長に就任した。

国連が近年特に力を注いでいるのが「ミレニアム開発目標(MDGs)」の実現である。地球規模の問題である貧困、飢餓、病気、非識字(読み書きができないこと)、環境破壊、そして女性差別と闘うため、数値で示した8つの目標を2015年までに達成することを目指している。この目標は、2000年の国連ミレニアム・サミットで世界の指導者が誓った共通の課題である。また、戦後60年が過ぎ、国際社会が政治的、経済的、地理的に国連創設当初とは大きく変化しているにもかかわらず、創設当時と変わらない安保理の構成を見直し、その機能を高めることが重要な課題となっている。日本はドイツ、インド、ブラジルなどととも安保理の常任理事国入りを目指している。